

新CL寓話一Ⅲ

David K. Reynolds, Ph.D.
2019

第1部

3. 信頼する人

小学4年生のミリーは水彩画で変わった描き方をします。担当の先生はミリーがいろいろな色をいっしょに混ぜないことに気づきました。絵具皿やブラシ、紙の上で混ざらないように、色を塗る前にそれぞれを慎重に洗いました。ミリーが男性を描くとしたら、全身が黄色か、白か、黒か、茶色でした。肌の色と髪、シャツや靴とズボンすべて同じ色でした。緑の葉の樹は幹も緑で、青い空は雲も青く、赤いれんが造りの家はドアも赤でした。

絵の対象物の周囲の輪郭は白く隙間があって色が塗られていません。青い空は本当に赤いれんが造りの屋根に触れていません。肌が褐色の男性は黄色の傘から少し離れています。そういう変わった絵でした。

ミリーの先生は生徒に絵を離して描くのはなぜかと尋ねました。

「その方が良いからです」とミリーは簡単に答えました。

「どう良いの？」

「いいからです」

この質問の掛け合いでは罅が明きません。先生は別の角度から訊いてみました。

「あなたの絵の色が混ざったらどうなるかしら、青い空に緑の木が触れたらどう？」

「へんてこな絵になる…と思います」とちょっと考えてから少女は答えました。

「本当に絵がどうなるかわかりません」。

「この絵を見て」と先生は他の生徒の水彩画を取り上げました。

「花の色がこここのとこで一緒に混ざってきれいじゃない？ 青い空に白と灰色がぼやけた雲の美しさがわかる？」

「それは、私のではなく、リアの絵です」

「でもあなたの絵も同じように見えるでしょう」

「たぶん、わからないけど。いろいろなものが接近しすぎていっしょに混ざってしまう。どうなるかわかる人なんているのかしら。この前ジェリーはたくさんの色を一緒に混ぜて、とてもひどいグレー茶色になっていました。食洗器の汚れた水のように」。

話は先生が今までに聞いた中で一番長いミリーの話でした。ミリーの話はゆっくりと始まり、あっという間に最後に飛びました。

「わかりました。私がここに座っている間に、2色を混ぜてみるのはどう？ どうなるか見るために」。

ミリーは先生が好きでした。そのうちミリーはどう混ぜると美しいコントラストと調和を出し、混ぜた色がどうなるかを学びました。

しばらくたってから、ミリーは何色と何色を組み合わせると素晴らしい色になるか、どちらかの色が消えてしまうかを学びました。それこそ自分のための芸術です。

.....

人生の一部を他の人生と別にしておこうとする人がいます。家庭生活と仕事、レジャーや信仰などを別にしておこうとします。私の生徒さんの中には仕事の仲間と親しく付き合う友人たちにグループを分けて、別々のパーティを開いていました。同じパーティーに皆をいっしょに招待するのは、友人たちや仕事仲間が一同に



会したら、どうなるか心配でした。

新しいことに臨むとき、何が起きるかわかりません。安全な道をえらぶ人もいます。ミリーのように人生で新しい取り組みを怖がるかもしれません。愛する、信頼できる人が手を貸してくれると、人生でよりたくさんのチャレンジができます。新しいつながりが人生をもっと面白くします。(アメリカ・オレゴン州CLセンター所長)

.....

前冬号「愛するようになるには」—行動が感情に影響を与えることから、小まめに世話をすることで、嫌いな鳥が好きになるストーリーでした。この法則を間違った方向で行動を使った実例がニュースにありました。

2020-2/29 朝日新聞から

56歳トラック運転手の男性が6個の簡易倉庫に、盗んだ大量の自転車サドルを保管しているのが見つかって逮捕されました。男性曰く「サドルを盗むのは初めはストレス解消のためだったが、だんだんサドルが好きで好きでたまらなくなった」とのこと。何を好きになっても自由ですが、盗む行動はいけませんね。(編集担当)

 [目次へ戻る](#)